

参加者: この会議で多くの優良事例や経験を共有させていただいた。ところで、ここにはアクティブな都市が集まっている。本市も、大都市でエンパワーされており、お金を稼ぐこともできるので、社会的な分野の事業に必要な資金を提供することができる。しかし、そのようなことができない都市もある。また、CO₂の削減や持続可能な社会づくりという課題に国家だけで取り組むことができないように、市民との対話の基盤や経験を有する都市が、国家と同じテーブルに着き、構造の変革に参画すること、エンパワーされ地域に責任を持つことが重要である。このような点も共同宣言の中で触れるとよいのではないか。

参加者: 本日の環境や高齢化に関する内容を聞き、先月開催された「都市の健康～人・まち・社会の健康づくり～」をテーマとする全国都市問題会議での議論を紹介したい。ある発表で、日本の三大都市のうち最も糖尿病発症率が高いのは、公共交通ではなく自家用車への依存率が最も高い都市であることが示され、自家用車を使わることは健康にもよいしCO₂の排出抑制にもなる、というような議論があった。本日皆様の話を聴き、これからは都市そのものが健康になっていかなければならないし、都市はその実情が分かり様々な体験もしているので、ここから何らかのメッセージを出すことが大事だと感じる。

参加者: 皆様のコメントに、とくに都市のエンパワーメントという点に賛同する。都市化の進行や環境問題や健康問題の深刻化について、我々は国家をはじめとする様々なセクターの努力を結集していくなければならないと思う。今後の都市サミットにおいて、どのように国家と付き合い、国家と交渉していくかを考えることにより、都市行政の成果をあげていくことができるのではないか。私たち都市が果たすことができる役割は非常に大きいと思う。このような点も次回の都市サミットで取り上げていただければと思う。

議長: ぜひ次回の都市サミットにつなげていきたい。ほかにもご意見があると思うが、以上で意見交換を終了し、本日の発表や意見交換を反映した共同宣言をとりまとめたい。

第11回アジア太平洋都市サミットにおいて、参加都市の発表と意見交換を通じ、都市の発展段階や特性によって優先的に取り組んでいる施策に違いはあるが、都市行政の根幹をなすのは、そこに住む住民とともに、いかにくらしやすい環境を創出できるかということ、また、くらしやすい都市づくりに関わる分野は多岐にわたるため、その推進には、都市自らが力をつけ、関係機関や都市間の連携が不可欠であることが認識できた。

この認識のもと、第11回アジア太平洋都市サミット参加各都市は、コンパクトな都市開発、インフラや住宅の整備、防災対策などのハード面や、地域コミュニティの活性化、健康増進、子育て支援、教育、文化創造などのソフト面において、様々な施策を展開してきていることを確認した。

そこで、今後、アジア太平洋地域の人々が更にくらしやすさを実感できる地域社会の実現を共通目標とし、以下の共同宣言を採択する。

1. クラしやすい都市の実現のため、ハード・ソフト両面において、各都市が持つノウハウの共有を図るとともに、人材・技術交流を進める。
2. クラしやすい都市の実現のため、その推進にあたっては、行政の各部門の連携はもとより、大学その他の研究機関、産業界や市民と協働して取り組む。
3. アジア太平洋地域のバランスの取れた発展を目指し、くらしやすい都市の実現はもとより、環境・高齢社会・経済・文化・観光など様々な分野において会員都市間の協力・連携を更に進めるため、交流の推進を図る。

2013年11月1日
日本国・熊本市にて